

2014年11月8日(土) ↓ 2015年1月12日(月)(祝)

陸から海へ

ひてがはじめからもっているカ

日本財団アール・ブリュット美術館
合同企画展 2014 ↓ 2015

監修：日比野克彦

みずのき美術館

開館時間：10時 ↓ 18時 休館日：月・火(但し、祝日の場合は開館) 入館料：2000円

主催：TURN実行委員会(みずのき美術館、瀬の津ミュージアム、はじまりの美術館、薬工ミュージアム)、日本財団 / 共催：社会福祉法人松花苑、社会福祉法人創樹会、社会福祉法人安積愛育園、特定非営利活動法人ワークスみらい高知 / アドバイザー：マ / 制作協力：山城大督 / 協力：京都国立近代美術館、川崎市、へ郎美術館、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団、公益財団法人生涯学習かめおか財団、APPLIANURANO、カモ井加工紙、佐藤初女事務所、NODAMAP、株式会社ファインウッド、ヒビノスペシャル

スリッパ

- マルセル・デュシャン
- 今村花子 畑中亜未
- 岡本太郎 中原浩大
- 田中偉一郎 浅井裕介
- 北川義隆 日比野克彦
- 戸來貴規 佐藤初女
- 野田秀樹 猪熊弦一郎
- 島袋道浩
- 十八代目中村勘三郎

美術館のあるまちへ

第一回

「輝き」

フォーラム

日時

2014年12月7日〔日〕

午後2時～4時〔開場：午後1時30分〕

会場

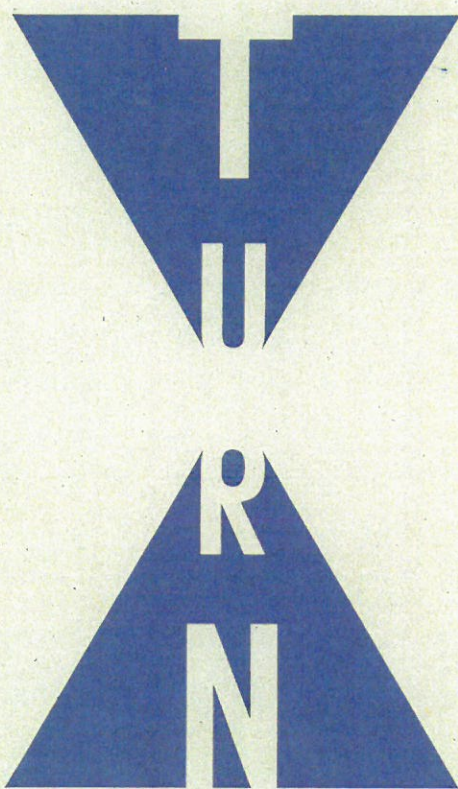
大本本部みろく会館

入場無料・事前申込不要

日本財団アール・ブリュット美術館合同企画展 2014-2015

ひとがはじめからもっている力

TURN / 陸から海へ



アーティスト・ガイドブック

4つのアール・

ブリュット

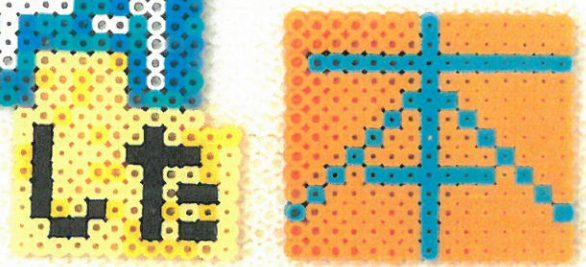
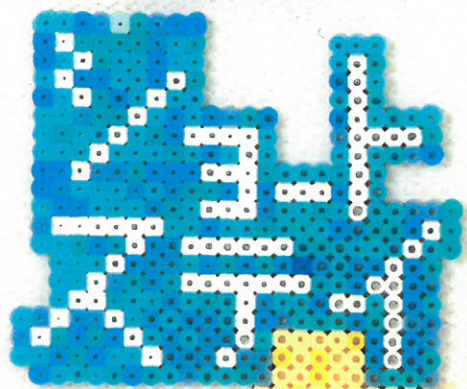
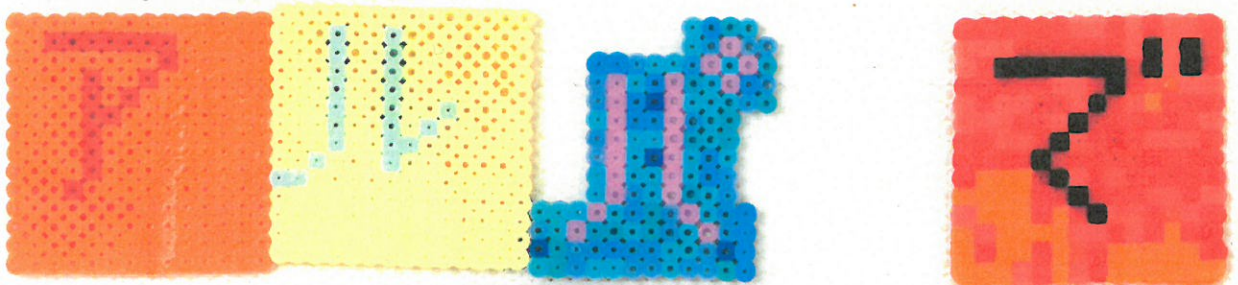
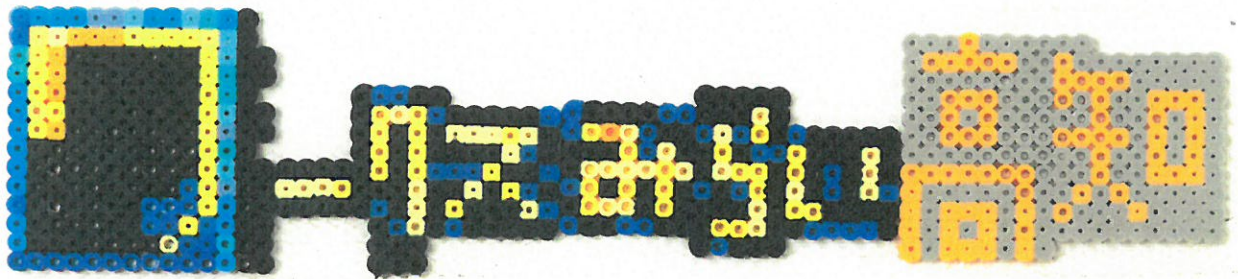
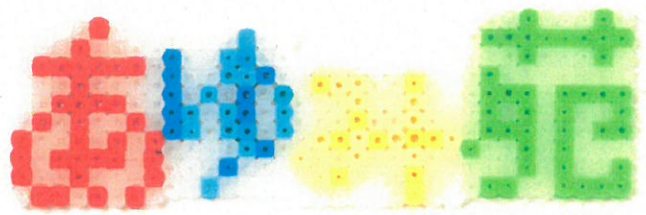
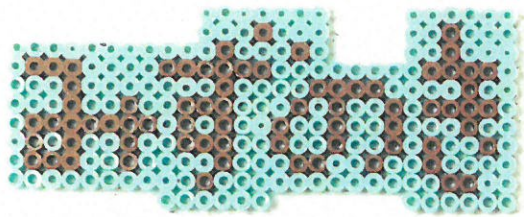
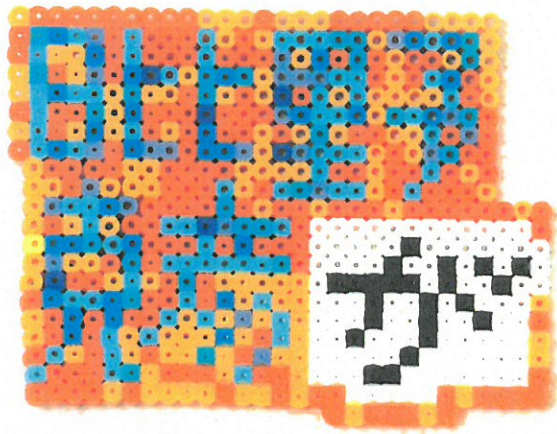
美術館

が

TURN

について

考えた2年半



2014年(平成26年)8月2日 土曜日

現代アーティストの日比野克彦さん(55)がこのほど、亀岡市河原林町の知的障害者支援施設みずのきに短期滞在した。専門的な美術教育を受けてない人の芸術「アール・ブリュット」の企画展に携わることになったのが縁で訪れた。利用者と生活を共にした日比野さんは「(障害者が)各自の世界観を持っていることを感じた」と手応えを語った。

芸術家・日比野さん 施設に短期滞在



企画展「TURN(生間、利用者と一緒に食まれつき持つっている)」事をとり、農作業に的に、深く刻むようよの監修を担当するのにそしんだ。帰宅準備をうにしていることが印合わせて、主催の同市一つ一つ確認しながら象的だった」と話す。北町のみずのき美術館 喜んでする様子などを 利用者の一人が土を 払うように筆を動かす 見て、「僕らが何げな 独特な描き方をするの 日比野さんは3日 行くっていることを、

障害者の世界観を感じた

亀岡で11月開催 企画展監修へ

「相手知り 制作の力に」

に刺激を受け、滞在中にアクリル絵の具やクレヨンで17枚もの絵を描いた。

「障害でコミュニケーションが取れない人もいるが、相手を知りたいという思いが制作するエネルギーになった」と日比野さんは振り返る。

今後、広島、福島、高知各県の障害者支援施設にも短期滞在する。企画展は11月に亀岡市で始まり、日比野さんとみずのき入所者の絵のほか、劇作家や死刑確定囚らの作品を展示する。

(久保田昌洋)

短期滞在中に描いた作品について語る日比野さん(中央)＝亀岡市河原林町・知的障害者支援施設みずのき

自主事業

新聞等掲載記事

駐車場の「P」の文字
や、建物の壁に連なるシ
ミ。普段なら見落として
ちなものを探しては、何
色も絵の具のついたパレ
ットやはけなどを手にし
て「はい、チーズ」。

市民が町中の景色の一
部を生み出しているよう
な写真作品を制作・展示
する体験型アートイベン
ト「ぼくらのしわざ」(み

ずのき美術館、生涯学習
かめおか財団共催)が12
月中旬から1カ月、JR
亀岡駅周辺で開催された。
期間中に約50人が参加
した。最初は遠慮がちな
親子も「見慣れた近所の
景色が新鮮に感じる」と
夢中になった。撮影され
た約300枚は、同美術
館に設置した手作りの



親子が手すりにペンキを塗っているような写真を撮影する
田中さん(奥)―亀岡市西町

ぼくらのしわざ



参加者たちの「しわざ」の写真が小屋一面に張られた



どんどん焼きで炎をあげるしわざ小屋
(亀岡市河原林町・みずのき)

町作る「体験写真に

張り足されていった。加者が自主的に楽しんで
指導にあたったアーテくて面白い展開になっ
イストの田中偉一郎さん」と手応えを感じる。
(40)は「難しく言う」と意 小屋は12日、知的障害
図しない行為の連続で成 者支援施設みずのき(河
り立つ社会の表現や、写 原林町)のどんど焼きで
真の信びよう性に二石を 炎に包まれた。約30分
投じる試み」と説明。「参 小屋は灰となり、ささや

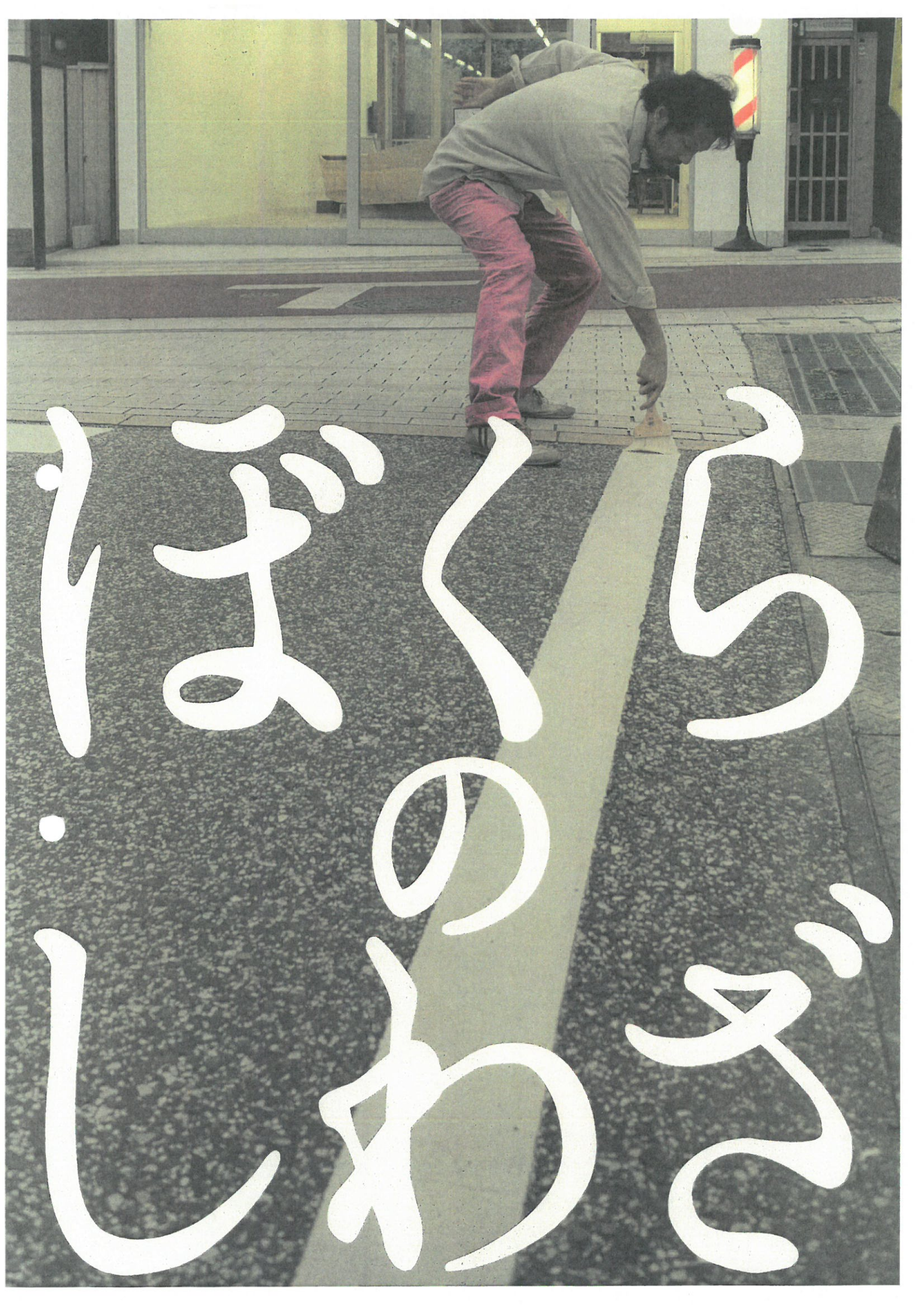
(菅田恭彦)

丹の風景

京都新聞
The Kyoto Shimbun Co.
発行所 〒604-8577
京都市中京区烏丸通夷川

1月15日 木曜日

丹波



らぶらぶのしずく